

応募事例

大分類	小分類	タイトル	実施内容・効果
労働安全	作業場所の安全確保	見える化と教育で守る倉庫の安全	高積み禁止ラインを棚にマーキングし、重量物の上段への積載禁止を厳格化した。新規作業者には崩落リスクと安全な積載方法を教育し、併せて日常的に巡回を行い積載状況を確認している。 視覚的な注意喚起と教育・点検の相乗効果で、ヒューマンエラーによる危険積載が激減した。
	運転や機械作業時の事故リスクに備える安全対策	通路の一方通行化と色分けによる安全性・効率向上	フォークリフトや台車などの運転・機械作業時の接触事故防止を目的に、作業場内の通路を一方通行化し、歩行者と車両の経路を完全に分離した。さらに通路を色分けし、「立入禁止」や「待機ライン」を明示することで、作業者の動線を視覚的に管理した。また、5Sルールに基づき、資材・工具を写真付きラベルで定位置に管理し、通路の障害物排除も行った。 これにより、歩行者と車両の接触リスクを根本から解消するとともに、つまずき・転倒事故やヒヤリ・ハットもなくなった。結果として、安全性と作業効率の双方が大きく向上した。
	正しい動作と姿勢で防ぐ腰痛・けがのリスク	正しい運搬動作の習慣化	重量物の持ち上げ・運搬動作をエルゴノミクスに基づき指導し、ひざを曲げて腰を守るフォームを全員に習得させた。加えて、運搬補助員の常設・2人作業ルールを導入するとともに、朝礼時に腰回りのストレッチを継続的に行うことで、柔軟性の維持・向上を図った。 導入後、腰痛発症件数が大幅に減少し、荷役作業の安全性向上に寄与した。
	化学物質対策	静電気対策を「見える化」して火災・爆発を防止	可燃性溶剤を扱う作業エリアでは、アースタッチ板での静電気放電を作業前のルールとして設定し、「⚡ タッチOK！」のポップで目立たせている。作業靴と床の導電性チェックを週1回実施し、結果を色付き管理表に記録するとともに、出入口には「火気厳禁」や「点検済みマグネット」を日替わりで掲示し、安全状況を一目で確認できるようにした。 視覚的な工夫で現場の安全意識を高めている。
労働衛生	熱中症対策	「暑さ対策カード」の作成・全員配布	社員証サイズの「暑さ対策カード」をラミネート加工し、制服や作業服に常時携帯させている。 カードには以下を掲載： -熱中症の初期症状（めまい・吐き気・けいれん など） -その場での応急対応フロー（涼しい場所・水分補給・救急連絡） -体調セルフチェック項目（朝の確認ポイント） -班ごとの緊急連絡先（班長・保健担当者） 携帯による即時確認が可能になり、初期対応の迅速化を図った。また、セルフチェックを習慣化することで、体調異変の早期申告が増加し、熱中症による休業者が前年比で大幅に減少した。
	騒音対策	ヘルメットに耳栓ポケットを付ける	騒音防止対策として、ヘルメット側面に耳栓を入れられる簡易ポケットを設置した。 これにより、耳栓の持ち忘れを防ぎ、すぐ装着できるようになった。 低コストかつ簡単な工夫で実践できた改善例となった。
	情報機器作業における作業環境	テレワーク中の作業負担軽減と情報管理の強化	テレワーク社員向けに、作業時間やタスク進捗を可視化するツールを導入するとともに、定期的なオンライン休憩や簡単なストレッチ、チャット相談窓口を設置し、長時間作業や疲労の軽減を図った。さらに、情報機器の操作方法やセキュリティ管理ガイドを配布し、作業ミスや情報漏えいリスクの低減にもつなげた。 これにより、身体的・心理的負担が減少し、集中力と作業効率の向上、テレワーク環境での安全管理意識の強化が実現した。
外国人労働	技能実習生・外国人労働者のためのわかりやすい安全衛生活動	外国人労働者向け動画教材による安全作業の定着	現場で使用する機械や工具の操作手順を動画で作成し、外国人労働者がスマートフォンやタブレットでいつでも確認できるようにした。動画は母国語字幕付きで、実際の操作と安全ポイントを視覚的に示す形式にした。 これにより、作業ミスや操作による事故が減少し、安全教育にかかる時間も短縮できた。また、母国語での理解が進むことで自信を持って作業ができるようになり、作業効率や定着率の向上にもつなげた。
メンタルヘルス	メンタルヘルス対策	リフレッシュスペース整備と5分休憩制度でマインドフルネスを定着化	空き会議室の一部を「マインドフルネス・ステーション」として改装し、落ち着いた照明・椅子・観葉植物・音楽スピーカーなどを設置した。誰でも自由に5～10分の瞑想・呼吸法・ストレッチができる空間を整備した。 また、13:30～14:00の間に各自が交代で5分間業務を中断し、ストレッチまたは瞑想を実施できる制度も導入（任意参加）。 これにより、作業中の緊張感や集中力低下のリセット効果が得られたほか、部署内での声かけや体調配慮の習慣が生まれ、メンタルヘルスの自律的なケア意識の定着に寄与している。